



THE TILE
FRONT 2004

vol.4

Modern Tile Concepts That Never Abandon
Nineteen Century Roots

憩いとやすらぎの場を包み込む グレーのボーダータイル

フォレストア藤枝/介護老人保健施設 静岡県藤枝市



建築家
渡辺 治氏
OSAMU WATANABE

北海道大学工学部建築工学科卒業。ペンシルバニア大学芸術学部建築学科修士課程卒業。東京大学大学院工学研究科建築計画専攻博士課程終了。日本大学生産工学部建築学科非常勤講師。千葉県工業大学工業デザイン学科非常勤講師。「大地に連なる住宅」コンペ優秀賞、エフィル住宅コンペ特別優秀賞他。

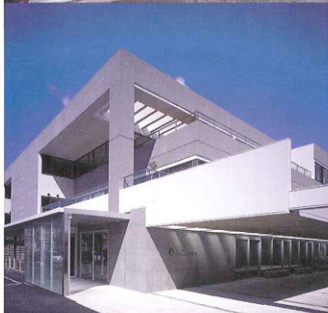
地域の交流拠点となる施設

静岡県の中部地方、藤枝市に誕生した介護老人保健施設である。気候の温暖な静岡県には福祉施設が多く、個々の施設が特色を出し競い合っている。写真の作品は地域に根ざし、地元の人々の交流拠点ともなるような施設として設計された。施設の前面には川が流れ、春には桜が咲く。建物は2つの中庭を抱くL字形で、開放しのPC板をそのまま天井とする合理性に富んだ構造。天井のPC板のリブは中庭外部に連続し光を拡散させている。外観はグレーのタイルと白のコンクリートが組み合わせられシャープで静謐な印象だが、内観はOSBを使った工場製作の木調パネルが使われ、やわらかな雰囲気空間が広がる。

外壁には細いプロポーションのボーダータイルが選ばれ、雨水が流れるようタテに張られている。遠めにはマッシュなグレーの面に見えるタイルが近くで見ると霜降り模様表情豊かなものとなる。タイルの選択に際しては手元で見ただけでなく、10メートル程離れた場所から眺めてイメージに合うものかどうか検討されたものだ。無機的に見える施設の外観が近づくにつれ親しみやすいものとなる。地域に開かれた施設として人々を迎え入れ、包み込むような建物となった。



雨水を考慮し、タテ目地を強調して置かれたボーダータイル。



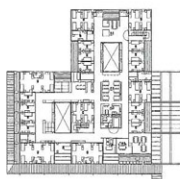
グレーと白のシャープな表情の外観。



内観・木調のやわらかな雰囲気。



□1階平面図



□2階平面図



□3階平面図

- 用途 介護老人保健施設
- 構造規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建て
- 敷地面積 2647.37㎡
- 建築面積 1562.18㎡
- 延床面積 3674.57㎡
- 使用タイル ボーダータイル